

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく4

国立市立国立第七小学校

平成28年9月16日 NO.44 (344)

ハナミズキの実



花ちゃん 「あ！きれいな実ですね。何の実だろう。オー君。わかる？」

オー君 「なんだろう。ぼくにもわからないよ。」

モンタ博士 「お！きれいな実だね。この花は、前にみんなに『国立てくてく』でお話したよ。思い出せないかな。春、白やうすピンクの花を見せてくれる木の花だよ。国立七小の北門から西に向かった街路樹にいっぱいあるよ。」

花ちゃん 「街路樹？何だろう。」

モンタ博士 「みんながよく乗り降りする『谷保駅』のまわりにもいっぱいあるよ。」

花ちゃん 「あ！わかった。ハナミズキですか。」

モンタ博士 「ピンポン。そのとおり。ハナミズキは、『国立てくてく平成25年NO5』に詳しくあるから見てごらん。」



ハナミズキの花

オー君 「ところで、モンタ博士。このハナミズキはどうしたのですか。」

モンタ博士「これはね、1年2組のKさんが、たまご広場で見つけたそうなんだ。」

花ちゃん 「へえー。1年生なのに、すごいですね。」

モンタ博士「そうだね。すごいね。えらいね。木の実があっても気づかない人が多いのに、よく気がついたね。どうして持って来てくれたのかな？」

1年kさん「とってもきれいだったの。いいものみつけたから、おともだちにみせてあげようとおもって、もってきたよ。」

モンタ博士「自分だけでなく、みんなにも喜んでほしいと思ったんだね。立派だね。とても感心だね。」

1年生 「お教室でみんなで、校長先生が、ハナミズキのマジックを見せてくれたのも楽しかったです。」

1年生 「そうそう。不思議だったね。校庭にはハナミズキがないけど、体育館前の『サンゴジュ』の葉っぱでも、マジックができてうれしかったです。」

1年生 「やり方はちょっとむずかしいけど、ていねいにやさしく葉っぱをひっぱるとできるんだ。なっとうの糸みたいのが見えたね。」

オー君 「ところで、モンタ博士。ハナミズキは赤い実ですね。でも、どうしてなんだろう。秋になるとドングリもできるけど、ドングリはどれもこれもみんな茶色っぽいものばかりだよ。どうしてなのかな・・・？」

モンタ博士「なるほど。おもしろいところに気がついたね。どうしてだろう。さあ、みんな考えてみようよ。」

花ちゃん 「ふーむ。どうしてだろう。そういえば、赤い実って、けっこういろいろといっぱいありますね。でも、ドングリって、どれもこれもみんな同じような色であまりきれいとは思えませんね。」

モンタ博士「なぜかな。どうしてかなと考えることは、とても大切だね。いろいろと考えてごらん。まあ、ヒントとしては、『鳥』とか『種子散布』ということかな。わかるかな・・・。詳しくはまたお話しするね。」